

1. 件名：日本原燃(株)MOX燃料加工施設建屋の鉄筋健全性について

2. 日時：令和3年2月8日 13時30分～15時00分

3. 場所：原子力規制庁2階会議室（TV会議システムを利用）

4. 出席者

原子力規制庁 原子力規制部

専門検査部門

大東首席原子力専門検査官、早川上席原子力専門検査官、
館内主任原子力専門検査官、千葉管理官補佐、清水検査技術専門職、
岡田技術参与、小泉技術参与

核燃料施設等監視部門

服部上席監視指導官、赤澤主任監視指導官、松倉原子力規制専門員
日本原燃（株）燃料製造事業部 副事業部長 他7名

5. 要旨

○日本原燃（株）から、MOX燃料加工施設燃料加工建屋の鉄筋健全性について、資料に基づき以下の説明があった。

(1) 追加の引張試験結果について

- ・ D35 の鉄筋については、10本の引張試験を実施し、「最も細い径の鉄筋」と「最も根元部減少率が大きい鉄筋」の2本がJIS規格値の「伸び」を満足しなかったため、径が34.39mm以上の鉄筋及び根元部減少率が、0.9697以上の鉄筋は全て健全であると評価する。
- ・ D38 の鉄筋については、以前に実施した引張試験の「伸び」の結果がJIS規格値に対して余裕があったことに加え、今回の2本の引張試験結果から残り鉄筋は全て健全であると評価する。

(2) 鉄筋のコンクリート打設までの時間に対する腐食進展の再評価について

- ・ D35 の鉄筋は34.60mm以下、D38 の鉄筋は38.00 mm以下の根元部については、モルタル養生を実施している。
- ・ D35、D38 を使用している壁のコンクリート打設は、最も遅い工区で6ヶ月後となることから、仮に6ヶ月後まで同じ減少量で腐食が進展しても、仮養生を実施していない鉄筋は、全数測定結果の最小鉄筋径を下回ることはない。

○原子力規制庁から、以下の内容を伝えた。

- ・ D35 の引張試験の結果、健全であると評価した最小鉄筋径は、34.39mmとしているが、測定値の不確かさを考慮した考察を行うこと。
- ・ D35 の引張試験の結果、径が34.39mm以上の鉄筋及び根元部減少率が、0.9697以上の鉄筋は全て健全であるとの説明があったが、JIS規格値の「伸び」を満

足しなかった鉄筋は、径が 34.37mm で根元部減少率が 0.9842 と根元部減少率が 0.9615 で径が 35.26mm であったことから、径が 35.26mm 以下で根元部減少率が 0.9842 以下の範囲にある鉄筋の健全性についても検討すること。

- ・説明資料については、令和 2 年 10 月 30 日に説明を受けた「MOX 燃料加工施設 燃料加工建屋の鉄筋健全性」の資料に、その後の追加説明資料の内容を取り込んで整理すること。

○日本原燃（株）から、承知した旨回答があった。

6. その他

資料：MOX 燃料加工施設 燃料加工建屋の鉄筋健全性 追加引張試験結果説明資料